



# ジオだより



三陸ジオパーク推進協議会

## 三陸鉄道40周年記念「三鉄ジオトレイン」を実施しました

### イシツブテ号で行く 《大地のなるほどツアー》

毎年実施している三鉄ジオトレインですが、本年度は三陸鉄道40周年の記念イベントとして三陸ジオパークならではの企画をしました。

“三陸鉄道イシツブテ&いわポケモントレイン”を貸切り、冬休みに親子で参加してもらえるお楽しみジオツアーとして実施。いわて応援ポケモンの車両は乗っているだけでもワクワク感が満載で、途中でポケふた（ポケモンマンホール=三陸沿岸には各市町村に1ヶ所ある）のチェックも子どもたちにはお楽しみポイントでした。

ツアーは全行程にわたって認定ガイドの田高さんが解説し、三陸鉄道ではトンネルが多い理由や日本でも珍しい火災訓練が実施されたことなど、知られざるエピソードに興味津々となりました。

宮古駅から普代駅までおよそ1時間、列車の旅の続きは大型バスに乗り換えいよいよジオサイトの野田玉川鉱山跡へ向かいました。



内陸からの参加者が多数



マリノローズに出会えたかな？

### 「のだ塩づくり」も体験



現役の塩づくりの現場  
のだ塩工房を見学



フライパンで煮詰めて  
仕上げるマイソルト

どうやって塩ができるのか、知ってはいても実際に作る機会は滅多にないのかもしれませんが。のだ塩づくり体験を楽しみにされている方も多かったので、昼食後の体験時間はとても充実した雰囲気でした。塩の結晶が現れて、水分を絞りボール状になった塩玉は、なぜか愛おしく「マイソルト」に満足気でした。

昭和初期の当時を再現している坑道内はマンガンボーイズがお出迎え。気温が年間通して10℃ほどで変わらないため、冬の時期はむしろ暖かく感じるということも実感。

その後は道の駅のだに立ち寄り、のだ塩ソフトも味わいつつ帰路へ。バス車内では、ガイドの話にかくされたヒントを頼りに3択クイズに挑戦しながら宮古に帰ってきました。また参加したいと大好評でした。

## 三陸の大地と化石

三陸の大地には、数千万年前の生き物の化石がまだまだ各地にたくさん埋もれているとされています。今回のジオトレインの企画に合わせ、地質学や古生物学の専門の先生方のご協力により、三陸の大地と代表的な化石（三葉虫・アンモナイト・ウミユリ）の説明パネルを作成し、ツアー当日は三陸鉄道の車両内に展示しました。



イベント限定企画で特別に車両内の前後にパネルを展示



いわて応援ポケモンのラッピング車両



# 《五葉山でジオ・トレッキングを開催！！》

## 五葉山の地質や歴史を学ぶトレッキング！

令和6年11月17日（日）、五葉山をガイドと一緒にトレッキングしながら地質や歴史について学ぶイベント「五葉山麓の自然と文化に触れるジオ・トレッキング」が開催されました。

現在、三陸ジオパークのジオサイトへの登録手続きが進められている五葉山のサイト登録祈念企画として開催されたもので、周辺地域の住民など34名が参加しました。



「五葉山火縄銃鉄砲隊」の迫力ある演武



ガイドの説明を聞く参加者



色づいたカラマツの林をトレッキング

## イベントの様子

集合場所となった羅象館（住田町上有住）では、「五葉山火縄銃鉄砲隊」の迫力ある演武が披露され、藩政時代に火縄の一大産地であった地域の歴史について学んだ後、近くを流れる桧山川で採取された岩石を実際に目にしながら、花崗閃緑岩や石灰岩など、五葉山地域でみられる岩石の特徴を観察しました。

その後、国有林の入口まで車で移動し、いよいよトレッキングがスタート。参加者はガイドの説明に耳を傾けながら、五葉山中腹にあるあすなる山荘を目指しました。散策では、火縄の原料となるヒノキアスナロの観察や、ブナの木の本齢を推測する体験等、五葉山の自然や植生について学びました。

折り返し地点となるあすなる山荘では、今回のツアーのために特別に用意された特製ジオ弁当が提供され、参加者は地元特産の肉や野菜をふんだんに使った料理に舌鼓を打ちました。



特製ジオ弁当

また、当日は、キャノンマーケティングジャパン株式会社の協力の下、「みんなの笑顔プロジェクト」として写真教室も開催。参加者一人一人にミラーレスカメラが貸し出され、プロの写真家であるかとうまさゆき氏らの指導を受けながら、思い思いの写真を撮影し、秋の五葉山を満喫していました。



## ～五葉山～

岩手県沿岸南部に位置する釜石市、大船渡市、住田町の2市1町にまたがる山。岩手県沿岸では標高が最も高く、貴重なヒノキアスナロの原生林やツツジやシャクナゲの群落が広がり、岩手県立自然公園にも指定されている。

春には栗木鉄山跡で同様のイベントが開催されますので、どうぞご参加ください。 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒

## 「栗木鉄山跡散策&写真撮影体験会」

～最新のミラーレスカメラを無料でお貸出～  
撮影で使用したSDカードはプレゼントいたします！！



新緑の中、  
ゆっくりとした時を過ごしながら、  
写真撮影を楽しんでみませんか？  
※初心者の方も  
大歓迎です！

開催日時：令和7年4月29日（火）10:00～12:30（受付9:30～）  
集合場所：遊林ランド種山（住田町世田米字字銅沢30-193）※10時までに集合  
募集人数：先着30名（小学生以下の方は保護者同伴ください）  
※当日は、動きやすい靴・服装でお越しください  
申込期限：令和7年4月22日（火）17:00締め切り  
申込方法：お電話等で住田町教育委員会へ（電話 0192-46-3863）  
内容：栗木鉄山跡の散策&ミラーレスカメラ使い方説明・撮影  
参加費用：無料  
※当日、住田町役場から送迎バスを運行します。利用を希望される方は、お申し込みの際にお伝えください。  
・行き 役場9:00発 ・帰り 役場13:20  
※帰りは、道の駅種山が原ぼらんでトイレ休憩をとります。時間は前後する場合があります。

## 《広田小学校でトレイルマップ作り》

陸前高田市の広田小学校では、毎年6年生が年間通して地域学習をしながらトレイルマップを制作しています。

今回は、地域の防災と歴史や文化も併せて学ぶ機会として「中沢浜貝塚」を中心にジオパークの授業を認定ガイドの吉田さんが担当するというので、現地に同行しました。

1回目は、教室での授業です。分かりやすいスライドを使いながら、広田小の周辺にある貝塚や石碑のことなど地域の歴史に関わる説明があり、貝塚の説明では実際に縄文土器を生徒たちに見せ理解を深めていました。吉田さんにとっては初めての母校での講師でしたが、さすがに地元のことをよく知るガイドなので、とても丁寧に楽しく授業を進めていらっしゃいました。

2回目は、現地に行って体験するフィールドワークです。高台になっている中沢浜貝塚は縄文時代の遺跡が発掘された文化財ですが、避難公園としての機能も兼ね備えています。漁港からつながり垂直避難ができる大階段が特徴的ですが、過去4回の津波の高さが表示されているので、その高さを実感できます。そしてスクールバスで移動し、トレイルのミッドポイントや桜ラインの植樹された場所、校庭のすぐ下の石碑を見学し、津波の教訓を確認しました。学校に戻ってからはハイカー体験も準備されていて、リュックに詰められているキャンプ用品はどれもが便利グッズなので、次々と披露されていくと子供たちの関心度が一気に高まりました。ハイカーの衣食住についての体験がとても新鮮だったようで、これも「百聞は一見に如かず」です。実際にハイカーはトレイルの地図を頼りに歩きますが、地域の情報が詳しく載っているマップはとても助かるということで、広田小学校のみんなが作っているマップはそれにならっていると褒められました。三陸の各地域でこのような取組ができると良いと思います。



お手製の縄文土器を実際に見せながら貝塚を紹介



かまどベンチで、どんな役割があるかを説明



ハイカーが広げたお気に入りの地図がジオアート!!

## 《JGN全国研修会in伊豆半島に参加してきました》

「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」

今回の全国研修会のテーマを聞いたときから、それは是非参加したいと思い、しかも伊豆半島ジオパークでの開催とあれば、なおのこと。複数の自治体で組織され、一般社団法人で運営されている世界ジオパーク認定の伊豆半島は、一度訪問したいと思っていたジオパークでもあり、この機会をいただけたことはとても有意義でした。

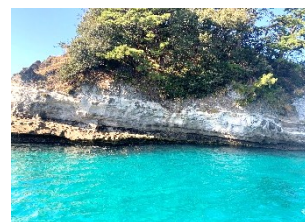
「ジオ＝地学」だけではない。あれもジオ、これもジオ、すべてのことは辿っていくとジオにつながる。ある時にそう気づいたら、ジオパークは「地域づくり」のツールにもなると思っていたので、この研修会に参加し、テキストに使われた著書「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」が手元にあることも偶然ではないのかもしれませんが。

ジオパークが目指すべき地域像やジオパークならではの地方創生のありかたを模索し、地域を担う人づくりについての理解を深める場として、全国のジオパークから研修会に42名が参加。本の執筆者のみなさまからの講義が順番に続き、大きく領いたことも多くそして難しい表現が並ぶこともありましたが、数々の事例紹介やその伴うワークショップについても、とても勉強になりました。



2日間にわたる研修会

最終日のエクスカージョンツアーでは、2コースに分かれてジオサイトを案内いただきました。なまこ壁で知られる松崎町の地域づくりの取組事例と堂ヶ島クルーズで現地のサイト視察に参加し、修善寺にある「ジオリア」にも立ち寄り、三島駅に到着。富士山の姿をついつい探す日々でした。



海底火山が南の海にあったころの様子を今に伝える姿



天気に恵まれ、堂ヶ島の遊覧船で絶景をめぐる



ジオリアで金沢ガイドにお会いしました

## 「明治日本の産業革命遺産」橋野鉄鉱山が 世界遺産登録10周年を迎えます！

岩手県釜石市の「橋野鉄鉱山」が構成資産として世界文化遺産に登録されている「明治日本の産業革命遺産」は、令和7年7月に世界遺産登録10周年の節目を迎えます。今回は、三陸ジオパークのサイトとしても登録されている「橋野鉄鉱山」についてご紹介します。

橋野鉄鉱山は、鉄鉱石の採掘場後と運搬路跡、高炉跡の総称で、幕末から明治にかけての日本の近代製鉄業を支え、国の発展に貢献した遺跡です。現存する日本最古の洋式高炉跡である橋野高炉跡が建設されたのは、安政5年（1858年）～6年。江戸末期、鎖国状態であった日本に開国を迫る欧米列強に対抗するため、大砲用の銃鉄（せんてつ）を供給する目的で作られました。建設は後に近代製鉄の父と呼ばれる盛岡藩士大島高任（おおしまたかとう）が指導、安政5年に仮高炉（現在の三番高炉）での操業に成功しました。これが橋野鉄鉱山の始まりです。

安政の大獄後、一時は閉鎖が検討されたものの有力な鉄山であったことから高炉は南部藩直営となり、一番高炉と二番高炉が建設され、高任の仮高炉は三番高炉として操業されました。

明治27（1894）年操業終了までの間、釜石地域には7か所13基もの高炉が立ち並びましたが、当時国内最大の鉄鉱山であった橋野は、まさに幕末から明治にかけての日本の近代製鉄業を支え、国の発展に貢献した「近代製鉄発祥の地」といえるでしょう。

以上のような背景があり、橋野鉄鉱山は、幕末から明治期にかけて日本の産業化の先駆けとなった重工業分野（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における産業遺産群「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として、2015（平成27）年7月にユネスコ世界遺産に登録されました。

釜石市には、橋野鉄鉱山インフォメーションセンターや鉄の歴史館等、釜石の鉄の歴史について学ぶことができる施設のほか、釜石駅前隣にある釜石物産センター・シープラザ釜石のお土産コーナーでは「釜石・鉄鉱石シュケット」や「釜石の橋野鉄鉱山クッキー」など橋野鉄鉱山にまつわるお菓子も販売されています。

10周年という節目の年ですので、ぜひ、鉄のまち釜石に足を運んでみてはいかがでしょうか。



## 三陸ジオパークかわらばん全作品展2024 @イオンタウン釜石



令和7年2月9日（土）～16日（日）、イオンタウン釜石において今年度の三陸ジオパークかわらばんの全作品展示を開催しました。市町村の担当者の皆さんと作業にあたりましたが、応募作品数が350を超えていたので会場のレイアウトを工夫し、展示パネル斜めに配置したりポスターやジオクイズなども併せて展示したところ、とても充実した空間に仕上がりました。

各地域ごとには10月～1月に現地会場で作品展を開催していましたが、お互いの地域の作品を見る機会になり、子供たちの作品に目を細めながら、感心して鑑賞していました。来年度も引き続き実施していく予定です。

**編集後記：**毎年3月に佐渡裕とスーパーキッズオーケストラの皆さんが、被災地を訪問してくださっています。仙台、釜石、宮古などの大きな会場での演奏の他に、根浜海岸の宝来館と吉里吉里の吉祥寺での演奏も欠かさずに続けていらしていると聞きました。震災を機にご縁が始まったことは数多くありますが、継続していらしてくださることに深く感謝です。音楽の力で“心の復興”の後押しをする「心のビタミンプロジェクト」に今回初めて行くことができ感激でした。～と～

### 三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

（宮古地区合同庁舎2階）

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

https://sanriku-geo.com/



facebookはこちら！